

おるご〜る

No.
208

男女共同参画

わこうプラン推進委員だより

図総務人権課 庶務・人権担当 ☎424-9094

“巣ごもり生活”から “男女共同参画”を学んだ!

わこうプラン推進委員

大河内 茂美

実は、筆者は後期高齢者で基礎疾患の保有者。新型コロナウイルスに感染すれば、「重篤者」になりやすい。そんなわけで、家族や仕事先などから「3密には近づくな」ときついアラートを頂戴している。2月末の「小中高の休校要請」以後は、「自分アラート」も加わり、極力外出を自粛。最近では、外出は散歩や地域の店での買物程度で、しっかりと「巣ごもり」をしている。仕事はメールや電話で対応、いわばテレワーク。オンライン誕生会を機に、近所に住むムスメ家族とオンライン夕食会を始めた。お陰で、地域活動でのオンライン会議にも参加できるようになった。

自粛生活は、経済・社会をも大きく変え、働き方や家庭生活にも様々な変化をもたらした。「出来ない出来ない」とされていたテレワークも、思いのほか浸透している。

そんな中、テレワークをしている家庭から、様々な「つづやき」が聞こえてくる。旧来型の役割分担意識をもつ夫のいる家庭では、三度の食事を除けば終日、「夫」は上半身ワイシャツ姿の下半身パジャマ姿で、会社とのビデオ会議をした

り、パソコンと睨めっこをしていたり、仕事に飽きて来るとケータイの動画やテレビを覗いている。「妻」は、子どもが仕事部屋に入らないように雑音を聞かせないようにと神経を使っている。「夫」からは「家では集中できない」と、「妻」からは「三度の食事メニューを考えるだけで大変。ケータイで遊んでいる位なら、子どもの面倒位見てよ」と、不満の声。

日頃から家事・育児を話し合いで分担が出来ている家庭では、テレワークするに当たっても家事分担やワークの時間などを決めて、自粛生活に入り、通勤の無さや、子どもとの遊びを楽しんでいる。仕事もメリハリがついて効率よく出来て、家庭生活もスムーズに行っていると喜んでいる。

夫婦や家族の役割分担が均等であれば、一人一人のイライラは解消しトラブルは少なくて済む。コロナ禍という奇禍を奇貨※として、家事や育児も「労働」であることを認識し、対等、平等となるように十分話し合う機会となればと思う。

奇禍…思いがけない災難

奇貨…利用すれば思いがけない利益が得られる事柄あるいは機会